

劔岳（早月尾根）山行報告

山行日：平成 28 年 6 月 26 日（日） 雨のち曇り

メンバー：CL 会員外 薄井

コースタイム：4:15 馬場島～8:15 早月小屋～12:15 山頂～14:40 早月小屋～17:40 馬場島



朝 4 時 15 分に馬場島荘を出発した。前日夕方に到着したときには大雨だったが、山荘スタッフによれば、テント泊のパーティが入っていると言う。

この雨で行くってどうなんだろうね、明日の朝この降りだったら行かないよね、と友人と話したのだが、がっかりなことに、翌朝起床したときにも本降りといってよいレベルの雨が降っていた。

しかし、今日の雨はやむ。予報ではそういうことになっている。だから、久々に雨具フル装備の上、予定を 45 分遅らせて出発した。

早月尾根はいきなり急登から始まる。黙々と登って 30 分ちょっとで松尾平の入口、標高 1,000m 地点に到着した。

松尾平はそれほど高い木がなく、明るくなり始めた空から落ちる雨がまともに当たる。おまけに平らなので道々大きな水たまりができているが、この雨ではいちいちよけていても仕方がない。意外に長い平坦な道が終わると、いよいよ早月尾根が本気を出した登りが始まった。

巨木の森の急登が延々と続いた。去年登った黒戸尾根よりはるかに急な登りだ。200m ごとの標識がリズムを作ってくれるが、あちこちの報告にあるように、これは（特に 1,600m は）いい加減らしい。

1,400m 地点でカップの上を脱いだ。雨はほぼやみ、上がっていく雲を追いかけるようにして登っているの、周囲も見えるようになってきた。こうなれば、むしろ晴れているよりも涼しくて登りやすいし、雲の動きが幻想的な景色にも出会える。

とはいえ長い。「もういやだー」と文句を言いながら登ること4時間、白い一枚岩をロープを使って越えたところで、唐突に早月小屋が目飛び込んできた。

小屋はまだ営業しておらず、前にテントが一張。ちょうど私たちが到着したとき、テントの主らしき4人パーティが登山道へ入っていくのが見えた。スタートがずいぶん遅い気がしたが、雨がやむのを待っていたのだろう。トイレから戻ってきた友人が、中にザックが干してあったという。昨日はかなり降られたらしく、テントの脇に小さい水路状のものも掘られていた。

空は明るい曇りで富山湾まで見えるし、大日岳と思われる稜線も見えていた。このまま青空になってほしい。



あまり食用がなくゼリー飲料くらいしか口にできなかったせいか、小屋から上の登りでいきなりペースダウンしてしまった。まだまだ元気な友人に先導してもらい、食料を補給しながらゆっくりと歩いた。

2,600m 地点あたりに来ると、残念なことに周囲はガスに覆われてしまい何も見えなくなった。

すぐ先に大きな雪渓があり、そこから5、6ヶ所の雪渓を越えた。登りは問題ないが、下りはアイゼンを付けたら脱いだり面倒になりそう。そして1ヶ所だけ傾斜が急で、帰りがちょっと怖そう…と感じた。

長い鎖場の最上部まで来ると雪はない。先行していた友人が誰かと話す声が聞こえる。

「いいペースで来たね。まさか日帰りじゃないよね」

「日帰りです」

「あーこういうのがいるからねえ」

時計を見ると、12時を少し回っている。あ、まずい、下りる時間だと友人のところに追いつくと、

「あれ、もう一人も女性だったの」

と驚かれた。

先ほどの雪渓について相談すると、アイゼン付けて後ろ向きで下れば大丈夫でしょと言う。うん、大丈夫だと思いたい。

頂上はもうそこにあった。



初めての剣岳頂上はガスに包まれ、残念なことに展望ゼロだった。貸切なので、看板はどれでも使い放題。少し寒いので、カッパを着て写真を撮ったら、すぐ下山を開始する。

例の雪渓のところでテントパーティに追いつくと、ちょうどロープを出して下っているところだった。ありがたくロープを使わせてもらってそろそろと下る。そのロープをつかむだけでアイゼンも使わずにすんだ。

何度もお礼を言って先行して下る。慎重に歩いて、小屋まで下ればもう危ないところはない。結局、下りでもアイゼンを出す場所はなかった。



休憩を終えてちょうど3時に小屋を出発する頃、テントパーティが上部にいるのが見えた。大きく手を振って、さらに先を急ぐ。早月尾根に登り返しはほとんどないが、そのわずかな登り返しさえ辛くなってきた。

果てしなく長い道のりを下り、午後5時40分、馬場島に帰着。13時間半のロングハイクだった。

有名な「試練と憧れ」を心から堪能した1日だった。